

# 授業名： 人間発達学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
清水 茂幸	一般	斑目	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 私たちが健康を考える場合、発育・発達という観点を大切にすることは非常に重要である。この講義では、発育・発達という概念を正しく理解できるようにそれぞれの内容に触れるとともに、発育・発達を考慮した体づくり及びトレーニング方法について解説する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①シキヤモンの発育・発達曲線をもとに4つの基本パターンを理解する。 ②どの時期にどのようなトレーニングを行うと体が正常に発達するかを理解する。 ③運動能力がどのように向上するかを理解する。					基礎学力 状況判断力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	発育・発達とは		人間発達について、発達要因、基本原則を理解する。			
2	発育・発達と健康		人間の発達領域、発達段階について理解する。			
3	乳幼児期までの発育・発達		発達検査の進め方の概要を理解する。			
4	児童・青少年期の発育・発達		児童・青少年期の正常発達についてその発達学的特徴を理解する。			
5	発育・発達の科学		身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学を理解する。			
6	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ1		適度の運動へのアプローチ			
7	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ2		バランスのとれた栄養へのアプローチ			
8	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ3		休養のとり方へのアプローチ			
9	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ1		体力の捉え方へのアプローチ			
10	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ2		健康関連体力へのアプローチ			
11	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ3		体力と運動能力、生活活動能力を利用して			
12	発育・発達を考慮したスポーツ実践1		運動の欲求を理解して実践する。			
13	発育・発達を考慮したスポーツ実践2		身体運動の重要性を理解して実践する。			
14	発育・発達を考慮したスポーツ実践3		発育発達期における健康の実態と問題を理解し実践する。			
15	発育・発達を考慮したスポーツ実践4		発育発達期の特性を理解し実践する。			
期末試験	筆記試験の実施		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】出村慎一監修 テキスト保健・体育(改訂版) 大修館書店						
【参考書】藤井勝紀 発育・発達への科学的アプローチ 三恵社						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	

# 授業名: 栄養学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
辻 匡子	一般	大内	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 日本人の健康と栄養状況は、医療・介護制度と生活レベルの向上により著しく高いものになり、平均寿命が男女ともに世界一を維持している。一方で、長年の食生活習慣の不摂生により生じる「生活習慣病」を理解し予防することを学ぶ。					【受講して得られる力】 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①栄養の基本概念と栄養学の歴史について理解する。 ②ライフステージと食生活との関りを理解する。 ③栄養学が身体で利用されるメカニズムを理解する。						
【履修上の注意】 指示された問題を解答し、提出する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	栄養とは		栄養の定義、ヒトの成長と栄養、ヒトの健康と栄養について理解する。また、栄養素の定義、分類と役割について概説する。			
2	栄養学のあゆみ		古代から現代までの長い間に栄養学という学問がどのように生まれ発展し、体系化されたか、振り返ってみる。			
3	栄養素とそのはたらき (1)炭水化物		栄養素として食物に含まれる糖質の種類について解説する。糖質の種類、分類、化学構造について学ぶ。			
4	栄養素とそのはたらき (2)炭水化物		糖質が体内でエネルギーは発生し、二酸化炭素と水に分解するまでの過程を学ぶ。			
5	栄養素とそのはたらき (1)脂質		脂質の定義、分類、化学構造を生体内での役割について学ぶ。特に必須脂肪酸の理解をする。			
6	栄養素とそのはたらき (2)就職先訪問		ヒトとエネルギー源として重要な脂質の体内での代謝について学ぶ。また、脂質の健康に及ぼす影響について知る。			
7	栄養素とそのはたらき (1)タンパク質		タンパク質の摂取の意義、化学構造、代謝を学習する。タンパク質の構成成分であるアミノ酸、特に必須アミノ酸を理解する。			
8	栄養素とそのはたらき (2)タンパク質		タンパク質の栄養価の評価方法を学ぶタンパク質のアミノ酸の補足効果を理解する。			
9	栄養素とそのはたらき ビタミン		微量栄養素として重要な脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。			
10	栄養素とそのはたらき ミネラル(無機質)		微量栄養素として重要なミネラル(無機質)の種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。			
11	水と食物繊維		水と代謝と出納と機能性非栄養成分である食物繊維の分類 栄養学的効果を学ぶ。			
12	消化と吸収		消化器官と消化酵素、糖質、脂質、タンパク質の消化吸收機能 食物の消化吸收に関する過程について理解する。			
13	エネルギー代謝		ヒトに必要なエネルギーの摂取と消費について学習する。 エネルギー出納と体重変化の関係について理解する。			
14	スポーツと栄養		スポーツ栄養の理論を踏まえた基礎的な知識の習得をする。			
15	スポーツと栄養		活動時の栄養素等、摂取量を各種目別に特徴を学ぶ。			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】基礎栄養学 化学同人						
【参考書】必要に応じて印刷物を配布する						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	

# 授業名： 情報処理概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
瀬谷 由美子	一般	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 文書、表、プレゼンテーション資料をパソコンを用いて作成するための知識について学習する。講義形式を中心とする。					【受講して得られる力】 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①パソコン上で情報やデータを取り扱うための基本的な知識・能力(情報リテラシー)を身に付ける。 ②プレゼンテーションの基本を身に付ける。 ③						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	情報処理の基礎知識		オリエンテーション, コンピュータとインターネット, Windowsの基礎知識 講義の概要とパソコン上でOfficeを利用するための基本知識が理解できる			
2	Wordによる文書の作成と管理		Wordの基礎知識, 文書の作成, 文書の印刷とページ設定 Wordで文書を作成し, 管理するための基本となる手順・操作が理解できる			
3	Wordによる表の作成と文書の編集		表の作成, 文書の編集 文書に挿入する表作成と文書編集の手順・操作が理解できる			
4	Wordによる既存のデータを利用した文書の作成		表現力をアップする 既存のデータや写真を文書に挿入して利用する方法が理解できる			
5	Wordによる長文作成		長文作成をサポートする, ビジネス文書の基礎知識 長文の目次の設定方法, 及び実務で使用する文書作成の基本的ルールが理解できる			
6	Excelによる表作成の基本操作		Excelの基本知識, データの入力・編集 Excelで表を作成するための基本となる手順・操作が理解できる			
7	Excelによる表の編集と印刷		表の作成, 表の印刷 表を見易く, 使い易くするための編集・印刷の手順・操作が理解できる			
8	Excelによる集計表の作成		いろいろな数式 集計表を作成するときに用いる数式や関数について理解できる			
9	Excelによるグラフの作成とデータ操作		グラフと図形, データベースの利用 グラフ作成, 及びデータの並べ替えと抽出の手順・操作が理解できる			
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成		PowerPointの基礎知識, プレゼンテーションの作成 PowerPointでプレゼンテーション資料を作成するための基本となる手順・操作が理解できる			
11	PowerPointによるビジュアル表現		図やオブジェクトの挿入と編集, 図表・グラフ・表の挿入と編集, 特殊効果の設定, 印刷関係の機能 ビジュアルな表現により, 質の高いプレゼンテーション資料を作成するための基礎的な手順・操作が理解できる			
12	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション		スライドショーをサポートする機能, プレゼンテーションの基本技能 効果的なプレゼンテーションを行うために必要な基本的ポイントが理解できる			
13	PowerPointによるプレゼンテーションの実際 1		自己紹介資料の作成 自己紹介資料の作成から発表までを体験することにより, プレゼンテーション資料作成の知識の定着化を図る			
14	PowerPointによるプレゼンテーションの実際 2		自己紹介資料を用いたプレゼンテーションの実施と評価 PowerPointを用いたプレゼンテーションの実施と評価を通して, プレゼンテーションの基本を理解する			
15	これまでの復習					
期末試験			評価方法	課題の達成度	30%	0%
				発表会の結果	70%	0%
【教科書】情報リテラシーOffice2013(実教出版), 情報モラル&情報セキュリティ(FOM出版)						
【参考書】特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	

# 授業名： 医療倫理(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
大内 佳奈江	一般	大内	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 近年重要視されている医療倫理について、インフォームド・コンセントや守秘義務、医療事故などの観点から学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復師としての倫理観を習得する。 ②医療倫理の基礎を習得する。 ③医療事故の事例をもとにディスカッションを行い、現場での対応力を身につける。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス		講義の進め方、評価方法、レポートについての説明。				
2	医療倫理とは		近年、医療倫理が重要視されるようになった背景について学習する。				
3	医療倫理の基礎		ヒポクラテスの誓い、パターンリズム、ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言など、インフォームド・コンセントが提唱されるようになった背景を学習する。				
4	医療倫理の四原則		自律尊重原則、無危害原則、善行原則、正義原則について学習する。				
5	医療従事者・患者関係		患者に信頼される柔道整復師について学習する。主に身だしなみやコミュニケーションについて学習する。				
6	守秘義務と個人情報保護		柔道整復師の守秘義務が適応となる範囲や、個人情報について学習する。				
7	インフォームド・コンセント		実際の現場でインフォームド・コンセントが行われている事例について学習する。				
8	再生医療		現在話題となっているiPS細胞やES細胞がなぜ倫理的に問われるのか学び、それに対する自己の考えを発表する。				
9	終末期医療		柔道整復師が、終末期医療患者に対して何ができるのか、具体的な事例をもとに学習する。				
10	医療事故		実際の現場で生じている医療事故や訴訟について学習する。				
11	医療従事者・患者関係における実践練習		実際の現場を想定して、身だしなみやコミュニケーションについて実践し、互いに評価する。				
12	インフォームド・コンセントにおける実践練習		インフォームド・コンセントについて、過去の事例をもとに話し合い、ディスカッションを行う。				
13	守秘義務と個人情報保護における実践練習		守秘義務違反について過去の事例をもとに、原因と予防策について話し合い、個人情報の保護について対策を考える。				
14	医療事故における防止策の検討		過去の事例をもとに、原因と予防策について話し合い、医療事故の防止策を検討する。				
15	医療事故における防止策の検討②		過去の事例をもとに、原因と予防策について話し合い、医療事故の防止策を検討する。				
期末試験	まとめ		評価方法	筆記試験	100%	0%	
					0%	0%	
【教科書】[改定版]入門・医療倫理 I							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 運動の科学 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
清水 茂幸	一般	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	前期・水 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキストを使用して『競技者育成プログラム』の理念と指導法を身につけ、指導計画やトレーニング方法を習得する。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①スポーツ指導の基礎知識と指導方法を身につける。 ②多様なニーズに対応した知識と指導方法を身につける。 ③競技者育成の高度な知識と指導方法を身につける。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	地域スポーツクラブの機能と役割		社会体育について 地域貢献におけるスポーツの役割			
2	スポーツと人権		スポーツ指導者の役割について スポーツにおける人権問題について			
3	競技者育成システムにおける指導計画		日本における競技者育成システムとは 各世代別による競技者育成システムの概要			
4	競技者育成システムにおける指導計画		海外の競技者育成システムとの比較 競技別の育成システムの考え方			
5	競技スポーツとIT		スポーツにおけるITの活用法 映像を用いた評価や診断について			
6	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任		スポーツ事故 スポーツ事故における指導者の責任			
7	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任		スポーツ事故における指導者の関わり方 ブレインストーミング			
8	競技者育成と評価		外傷・障害の発生起点 競技者育成プログラム			
9	競技者育成と評価		オーバートレーニングについて 評価方法			
10	スポーツ組織の運営		スケート連盟のトレーナー制度 競技会でのトレーナーのルール			
11	スポーツ組織の運営		各競技団体でのトレーナー制度について 長野オリンピックにおけるトレーナーの立場について			
12	競技者育成プログラムの理念		競技者育成プログラムの構築について トレーニングプログラム			
13	競技者育成プログラムの理念		競技団体における強化方法について 競技特性を理解した育成プログラム			
14	プレイヤーと指導者の望ましい関係		発育発達期の身体的特徴について 性差による指導方法			
15	プレイヤーと指導者の望ましい関係		セクシャルハラスメントについて プレイヤーと指導者の望ましい関係とは			
期末試験			評価方法	レポート	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I、II、III						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	

授業名: 保健体育(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
薄 貴	一般	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・月 2	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 体育とは、健康の保持・増進と運動技術の向上を図る実践の場である。ネット境界とする球技・対人を相手とする球技及び走・跳・投を有する野外種目を通じて他人的・集団的技能習得し、更にチーム・ワークとしての自主性・積極性・協調性を育みルールの順守という社会的態度を育成する。また、運動を実践し心の健康を育む					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①ストレッチ運動方法を体験学習することにより、その主旨を理解し、主運動につなげる ②種目運動を通して、それぞれの技能習熟し乍、楽しさ、難しさ、る一るの大切さを知る ③安心・安全での正しい運動実践を目指し、器具・機材の整備・点検を心がける					向上心 チームで働く力 協調性の向上 忍耐力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動活動におけるオリエンテーション	1. ストレッチ運動の方法 2. 太極拳健康運動の方法 3. 活動時における取組み方 4. 器具・機材の安全管理				
2	A: バレーボール	・簡易ゲームによる個々人の技能確認 (高校時代の部活動経験、学校教育を参考にして)				
3		1. 個人競技の練習と習得。グループ学習による サーブ: レシーブ: トス: スパイク等				
4		2. 集団技能の練習と習得 (1) 投げ入れサーブ ~ レシーブの練習				
5		(2) レシーブボール ~ トスへのスパイクという連携技能の習得 (3) 実践に近い様式でのゲーム感覚による練習				
6	ゲーム展開	1. 男女別チームによるゲーム ・レシーブ技能の習得を最重点と理解させる(ゲームはレシーブから)				
7		・チーム内の弱点をみつけ、どうかカバーリングするか ・ゲームの組立て方を確立する…ポジション役割の理解と実践				
8		2. 男女混合チームによるゲーム ・男女の基本的能力の差異を考えてゲームコントロール…カバーリング				
9		3. 楽しく勝つ為のゲーム展開とは ・ポジションの役割と理解 …前衛=アタック 後衛=レシーブ				
10		・セッターの選定 …トスが上げれば攻撃成功 ・経験者の活用と作戦				
11	B: 選択授業 (卓球・バドミントン)	・卓球 個人・ダブルスの簡易ゲームによる個々人の技能確認	・バドミントン			
12		1. 個人技能の練習と習得…グループ学習による ・シェイク型かペンシル型か				
13		・フォア・バックと返球 ・コンビプレイ(前衛・後衛の役割)	・フォア・バックと返羽 ・コンビプレイ(前衛・後衛の役割)			
14	ゲーム展開	・ダブルスによるゲーム ・男女混合ダブルスによるゲーム	・ダブルによるゲーム ・男女混合ダブルスによるゲーム			
15		指導助言し乍ら 総当りリーグ戦		指導助言し乍ら 総当りリーグ戦		
期末試験		評価方法	実技試験	80%		0%
			授業への貢献	20%		0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

# 授業名: 保健体育(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
薄 貴	一般	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 2	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 体育とは、健康の保持・増進と運動技術の向上を図る実践の場である。ネット境界とする球技・対人を相手とする球技及び走・跳・投を有する野外種目を通じて他人的・集団的技能習得し、更にチーム・ワークとしての自主性・積極性・協調性を育みルールの順守という社会的態度を育成する。また、運動を実践し心の健康を育む					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①ストレッチ運動方法を体験学習することにより、その主旨を理解し、主運動につなげる ②種目運動を通して、それぞれの技能習熟し乍、楽しさ、難しさ、る一るの大切さを知る ③安心・安全での正しい運動実践を目指し、器具・機材の整備・点検を心がける					向上心 チームで働く力 協調性の向上 忍耐力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	C:フットサル		1. 個人技能の練習と習得(グループ学習) ・パス～トラップ～トス:リフティング～パス:ドリブル～リフティング～パス			
2			2. 実践に近い様式での集団的技能の練習と習得 3 on 3ハーフコートでの連携プレイ～シュートへ			
3	ゲーム展開		・男女別でのゲーム(5 on 5) ・身体接触(脚)・シュートボール・スピードに対する安全留意			
4			・個人競技を十分に活用 ・壁を使つてのリバンド処理			
5			・男女混合チームでのゲーム ・男女の基本的能力の差異を考えた上でのゲーム・コントロール			
6			・GKの活用をいかにするか			
7	D:バスケットボール		1. グループ学習での個人技能の練習と習得 ・パス…チェスト:バウンズ:オーバーヘッド:ショルダー			
8			・ドリブル…チェンジオブペース:チェンジオブハンド:バックロール ・シュート…ランニングシュート:ジャンプシュート:ドリブルイン			
9			2. 集団技能の練習と習得 ・3menブレイクアウト…リバウンド～パス～ドリブル～パス～シュート			
10			・3 on 3ハーフコート・プレイ…実戦に近い様式で			
11	ゲーム展開		1. 男女別によるゲーム (1)経験者の活用…チーム・リーダーになる			
12			(2)チーム・ディフェンスはどうするか…マンツーマンかゾーンか (3)楽しくゲームする為には			
13			・1 on 1で相手を抜いてのシュートの楽しみ ・ノーマークをいかにして作つて得点するか			
14			2. 男女混合によるゲーム ・男女の技能的差異を考えたゲーム・コントロール			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	実技試験	80%	0%
				授業への貢献	20%	0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名: 外国語(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
刈屋 俊樹	一般	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・火 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や様々な表現を覚え考える力を身に付ける					【受講して得られる力】 コミュニケーション力 前に踏み出す力 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①コミュニケーション能力の向上 ②発音法の基礎習得 ③英語を話す喜びの体得						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学習方法)			
1	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
2	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
3	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
4	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
5	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
6	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
7	フォニックス指導 絵本指導:「No, David!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本1:「No, David!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
8	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
9	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
10	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
11	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
12	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
13	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
14	フォニックス指導 絵本指導:「I LIKE ME!」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本2:「I LIKE ME!」 講義に集中し、積極的に発話をする			
15	フォニックス指導 前期講義復習		ゲームや英語の歌、発音指導、前期絵本理解復習 絵本1と絵本2の総復習と実技試験(スピーキングテスト)準備			
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験 60% 実技試験 20%	授業への貢献	20%
【教科書】「No, David!」「I LIKE ME!」						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 外国語(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
刈屋 俊樹	一般	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・火 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や様々な表現を覚え考える力を身に付ける					【受講して得られる力】 コミュニケーション力 前に踏み出す力 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①コミュニケーション能力の向上 ②発音法の基礎習得 ③英語を話す喜びの体得						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学習方法)			
1	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
2	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
3	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
4	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
5	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
6	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
7	フォニックス指導 絵本指導:「David Gets in Trouble」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本3:「David Gets in Trouble」 講義に集中し、積極的に発話をする			
8	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
9	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
10	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
11	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
12	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
13	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
14	フォニックス指導 絵本指導:「THE CARROT SEED」		ゲームや英語の歌、発音指導、絵本読解指導 絵本4:「THE CARROT SEED」 講義に集中し、積極的に発話をする			
15	フォニックス指導 前期講義復習		ゲームや英語の歌、発音指導、後期絵本理解復習 絵本3と絵本4の総復習と実技試験(スピーキングテスト)準備			
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験 実技試験	60% 20%	授業への貢献 20%
【教科書】 「David Gets in Trouble」 「THE CARROT SEED」						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

# 授業名： 解剖学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
大内 佳奈江	一般	大内	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・火 3	【授業形態・単位】	講義 4	
【授業の概要】 解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学 I では、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、解剖学と生理学の概要、人体の基礎構造および骨格系について学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力		
【学習目標(到達目標)】 ①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③脳・神経構造と機能を学習する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	人体解剖学概説 (1)		解剖学の定義、意義とその重要性 解剖学の分類				
2	人体解剖学概説 (2)		人体内部の腔所とそこにみられる構造物				
3	人体解剖学概説 (3)		方向と位置を示す用語と基準面				
4	人体の構成 (1)		細胞の定義と細胞核・核酸				
5	人体の構成 (2)		細胞小器官とその機能				
6	人体の構成 (3)		上皮組織・結合組織の種類と分布				
7	人体の構成 (4)		軟骨組織の種類、骨組織の構造				
8	人体の構成 (5)		血液、筋組織、人体の発生				
9	骨格系 (1)		骨格の構成と形状				
10	骨格系 (2)		長骨の微細構造と骨膜の機能				
11	骨格系 (3)		骨の発生様式と成長				
12	骨格系 (4)		脊柱を構成する骨の種類・数およびその湾曲の特徴				
13	骨格系 (5)		上肢の骨				
14	骨格系 (6)		下肢の骨				
15	骨格系 (7)		頭蓋の分類				
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験	80%	0%	
				受講態度	20%	0%	
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版 岸 清・石塚 寛 編 (医歯薬出版)							
【参考書】医療のための脳・神経解剖学の基礎 増補改訂新装版							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 解剖学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
大内 佳奈江	一般	大内	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・水 2	【授業形態・単位】	講義 4
【授業の概要】 解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学 I では、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、解剖学と生理学の概要、人体の基礎構造および骨格系について学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】						
①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③脳・神経構造と機能を学習する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	筋系 (1)	筋組織の種類と特徴				
2	筋系 (2)	筋の起始部・停止部と二関節筋				
3	筋系 (3)	頭部(表情筋・咀嚼筋)・頸部の筋				
4	筋系 (4)	胸部・腹部・背部の筋				
5	筋系 (5)	肩甲骨に付着する筋と腱板を構成する筋				
6	筋系 (6)	上腕・前腕の筋と支配神経				
7	筋系 (7)	下肢帯・大腿の筋と神経支配				
8	筋系 (8)	下腿の筋と支配神経				
9	関節と靭帯 (1)	骨の連結の種類と関節円板 関節の運動軸の数による分類と関節面の形態による分類				
10	関節と靭帯 (2)	関節円板の存在位置・機能と脊椎を連結する靭帯、上肢関節				
11	関節と靭帯 (3)	股関節 膝関節の靭帯と作用、ショパール関節と内外側縦足弓				
12	神経系 (1)	神経系の分類とニューロンの構造				
13	神経系 (2)	脳室系・髄膜・脳脊髄液と脳の発生				
14	神経系 (3)	末梢神経:脳神経				
15	神経系 (4)	末梢神経:脊髄神経、自律神経				
期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験	80%		0%
			受講態度	20%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版 岸 清・石塚 寛 編 (医歯薬出版)						
【参考書】標準解剖学、臨床解剖断面アトラス						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名： 生理学 I (動物系)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
勝田 新一郎	一般	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 生理学は、生体(ヒトを含む)の機能を追究する学問であり、解剖学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。生理学では、これからの柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、生理学の概要、人体諸器官の構造と機能について学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①人体を構成する各諸器官の構造と機能について説明できる。 ② ③						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	生理学概論	生理学の意義と重要性 糖質・脂質				
2	細胞の機能的構造	細胞(細胞小器官・核) 拡散・浸透				
3	血液 (1)	血液の役割 組成				
4	血液 (2)	血液細胞、免疫 血液型、血液凝固				
5	循環の生理 (1)	心臓の構造・機能 心筋の基本的性質				
6	循環の生理 (2)	血管系 血圧、循環の調整				
7	循環の生理 (3)	局所循環 脳脊髄液循環				
8	呼吸の生理	呼吸器の構造、ガス交換、ヘモグロビンの役割 呼吸の調節、呼吸の異常				
9	消化と吸収 (1)	消化器の働きとその運動 消化液の分泌機序				
10	消化と吸収 (2)	消化器の働きとその運動 消化液の分泌機序				
11	栄養と代謝	消化と吸収 肝臓と胆道系				
12	体温とその調節	体温の生理的変動 体温の調節				
13	尿の生成と排泄 (1)	腎の再吸収と排泄 尿細管での再吸収				
14	尿の生成と排泄 (2)	水の再吸収と排泄 グルコースの再吸収、排尿				
15	生殖	性染色体とその異常、 排卵周期、妊娠と分娩				
期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 生理学 改訂第3版 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

# 授業名： 生理学Ⅱ(植物系)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
吉江 進	一般	大内	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 生理学は、生体(ヒトを含む)の機能を追究する学問であり、解剖学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。生理学では、これからの柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、生理学の概要、人体諸器官の構造と機能について学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①人体を構成する各諸器官の構造と機能について説明できる。 ② ③						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	内分泌 (1)	内分泌腺の種類 下垂体前葉ホルモン				
2	内分泌 (2)	下垂体後葉 甲状腺・副腎皮質ホルモン				
3	内分泌 (3)	副腎髄質・膵臓ホルモン 精巣・卵巣ホルモン				
4	骨の生理	骨の構造、骨の形成と成長 カルシウム代謝				
5	体液の生理	体液の区分、体液の恒常性 体液酸塩基平衡				
6	神経系 (1)	神経系の形態 活動電位、不応期				
7	神経系 (2)	興奮の伝導 興奮の伝達(シナプス)				
8	神経系 (3)	神経系の成り立ち 内蔵機能の調節				
9	神経系 (4)	摂食行動の調節、姿勢と運動の調節 小脳の機能				
10	神経系 (5)	脳波 覚醒と睡眠				
11	筋系 (1)	筋肉の種類と特徴 骨格筋の構造、筋収縮				
12	筋系 (2)	筋細胞膜の興奮 骨格筋の収縮の仕方				
13	筋系 (3)	筋収縮のエネルギー 平滑筋・心筋				
14	感覚系 (1)	感覚の種類、体性感覚 嗅覚・味覚・聴覚				
15	感覚系 (2)	視覚 前庭感覚				
期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 生理学 改訂第3版 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

# 授業名： 整形外科学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
佐藤 正憲	一般	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科の診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。					【受講して得られる力】 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①整形外科の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格する知識をつけること。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	運動器の基礎—構造と機能		骨の機能・種類・構造および骨代謝について理解する 関節の機能・種類・構造を理解し、滑膜、関節軟骨機能を知る			
2	整形外科的診断法		病歴の聴取、視診、触診、動きをみる、計測法を学ぶ 骨・関節の画像診断と神経、筋、関節液の検査法			
3	整形外科的治療法		保存治療:安静、固定、牽引、理学療法、薬物療法 手術治療:皮膚、腱、神経、血管、骨、関節、脊椎の手術			
4	軟部組織と切断		軟部損傷の種類と部位について解説 切断部位による治療と機能欠損について説明する			
5	末梢神経損傷		神経損傷の病態の分類、症状と検査法、治療 代表的な末梢神経損傷について理解する			
6	骨折と骨癒合		骨折の分類、症状、合併症を理解する 骨折の治癒、治療、小児骨折の特徴、遷延治癒と偽関節を理解			
7	関節・脊椎・胸部の外傷		関節血腫、靭帯損傷、脱臼と亜脱臼について説明する 頸椎・胸椎・腰椎の骨折、脊髄損傷について解説する			
8	上肢の外傷(1)		腕神経叢麻痺、肩甲帯の骨折について理解する 腱板断裂について理解する			
9	上肢の外傷(2)		肘と前腕の外傷について理解する 手関節と手の外傷について理解する			
10	下肢の外傷(1)		骨盤骨折、股関節脱臼について説明する 大腿骨頸部骨折、転子部骨折について説明する			
11	下肢の外傷(2)		膝周辺の骨折について理解する 下腿・足部骨折、アキレス腱断裂について解説する			
12	先天異常と無腐性骨壊死		骨形成不全症と骨軟骨異形成症を学ぶ 無腐性骨壊死の部位と原因、診断法、治療について学ぶ			
13	骨腫瘍と軟部腫瘍		骨軟骨腫、骨肉腫などについて解説する 軟部良性腫瘍、悪性腫瘍について解説する			
14	これまでの復習1		前期に学習した内容を再度確認する 国家試験と関連した項目を確認する			
15	これまでの復習2					
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 整形外科学 南江堂						
【参考書】標準 整形外科学 第11版						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

# 授業名： 医学史

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	一般	斑目	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	8(15)	
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 医学の芽生えから現代までの発展を学ぶ。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①医学の発展、そのきっかけを知り何を感じたかまとめる ②読解力を向上させる ③					考え抜く力 前に踏み出す力 問題解決力 コミュニケーション力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	医学の芽生え		四大文明の医学の発展の違いについて				
2	解剖学の夜明け		当時の解剖や怪我の手当てについて				
3	日本医学の歩み①		国外医学の日本への流入やその発展について				
4	日本医学の歩み②		国外医学の日本への流入やその発展について				
5	華岡青州 ジェンナー		世界初の全身麻酔手術について 天然痘ワクチン誕生について				
6	全身麻酔法の発見		全身麻酔の種類やその発見について				
7	消毒法の発見		消毒法発見のきっかけについて				
8	北里 柴三郎 野口 英世		日本近代医学の父について 福島を代表する偉人を知ろう				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末 試験			評価方法	レポート 受講態度	60% 10%	課題の達成度 30% 0%	
【教科書】							
【参考書】まんが 医学の歴史							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 柔道 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
長沼 久・國分 義之	一般	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	23(45)
			【曜日・コマ】	前期・木 2	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①礼法(立礼・座礼)を学ぶ。 ②柔道着の着方、帯の結び方を理解する、 ③柔道姿勢、組み手、受身を修得する。					忍耐力 協調性の向上	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	礼法 1		柔道の礼法の説明 正しい立礼を習得			
2	礼法 2		柔道の礼法の説明 正しい座礼を習得			
3	後方受身		後方受身の説明 正しい後方受身を習得			
4	横受身		横受身の説明 正しい横受身を習得			
5	前方回転受身 1		前方回転受身の説明 座位からの前方回転受身を習得			
6	前方回転受身 2		前方回転受身の説明 立ち膝からの前方回転受身を習得			
7	前方回転受身 3		前方回転受身の説明 立位からの前方回転受身を習得			
8	投技(大腰) 1		大腰の技の説明 正しい大腰の受身を習得			
9	投技(大腰) 2		大腰の技の説明 正しい大腰の投技を習得			
10	投技(大内刈) 1		大内刈の技の説明 正しい大腰の受身を習得			
11	投技(大内刈) 2		大内刈の技の説明 正しい大内刈の投技を習得			
12	投技(小内刈) 1		小内刈の技の説明 正しい大腰の受身を習得			
13	投技(小内刈) 2		小内刈の技の説明 正しい小内刈の投技を習得			
14	投技(足払) 1		足払の技の説明 正しい足払の受身を習得			
15	投技(足払) 2		足払の技の説明 正しい足払の投技を習得			
16	実技試験を行う		評価方法	実技試験	80%	0%
				受講態度	20%	0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	



授業名: 柔道整復学総論(1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 3
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	骨の損傷①		骨の形態と機能 骨折の分類			
2	骨の損傷②		骨折の症状 骨折の合併症 小児骨折 高齢者骨折			
3	骨の損傷③		小児骨折・高齢者骨折 骨折の癒合日数			
4	骨の損傷④		骨折の治癒過程 骨折の予後			
5	骨の損傷の復習		骨の損傷の復習			
6	関節の損傷①		関節の構造と機能 関節損傷の分類			
7	関節の損傷②		関節構成組織損傷 脱臼の定義と概説 脱臼の発生頻度			
8	関節の損傷③		脱臼の分類 脱臼の症状			
9	関節の損傷④		脱臼の合併症 脱臼の整復障害 脱臼の経過と予後			
10	関節の損傷の復習		関節の損傷の復習			
11	筋の損傷①		筋の構造と機能 筋損傷の分類 筋損傷の症状			
12	筋の損傷②		筋損傷の治癒機序 筋損傷の予後			
13	筋の損傷の復習		筋の損傷の復習			
14	腱の損傷		腱の構造と機能 腱損傷の分類			
15	総復習		骨・関節・筋・腱損傷の復習			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	70%	授業への貢献
				受講態度	10%	0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名： 柔道整復学総論(2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 3
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	末梢神経の損傷		神経の構造と機能 神経損傷の分類 神経損傷の症状			
2	診察		診察時の注意点 診察手順 治療計画の作成 施術録の取り扱い			
3	治療法(整復法)		骨折の整復法 脱臼の整復法			
4	治療法(固定法)		固定施行時の配慮 固定後の配慮			
5	治療法(後療法)		手技療法 運動療法 物理療法			
6	復習		神経損傷、診察、治療法の復習			
7	手技療法		実際に手技療法の種類を体験			
8	手技療法		実際に手技療法の種類を体験			
9	物理療法①		各物理療法器具の特徴、使い方			
10	物理療法②		各物理療法器具の特徴、使い方			
11	物理療法③		実際に物理療法器具を体験			
12	物理療法④		実際に物理療法器具を体験			
13	治療法(指導管理)		患者の環境に対する指導管理 自己管理に対する指導			
14	治療法(指導管理)		患者の環境に対する指導管理 自己管理に対する指導			
15	総復習		神経、診察、治療法の復習			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	70%	授業への貢献
				受講態度	10%	0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名： 柔道整復学総論(3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 3
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	骨損傷・関節損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
2	骨損傷・関節損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
3	骨損傷・関節損傷の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
4	筋・腱・神経損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
5	筋・腱・神経損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
6	筋・腱・神経損傷の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
7	触診・治療法(整復法・固定法)の問題作成		グループでの復習+問題作成			
8	触診・治療法(整復法・固定法)の問題作成		グループでの復習+問題作成			
9	触診・治療法(整復法・固定法)の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
10	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループで物理療法の復習			
11	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループでの復習+問題作成			
12	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループでの復習+問題作成			
13	治療法(後療法)・指導管理の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
14	手技療法		手技療法の復習			
15	総復習		復習			
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	70%	授業への貢献
				受講態度	10%	0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名： 包帯法(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・水 4	【授業形態・単位】	講義・実習 2	
【授業の概要】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					【受講して得られる力】 固定技術 基礎学力		
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	包帯固定学総論		固定の目的、固定の範囲、固定の肢位 上記を正しく理解する。				
2	固定材料の種類		硬性材料・軟性材料 各種固定材料を理解する。				
3	巻軸帯の巻き方と注意事項1		包帯の巻き方の基本・持ち方・巻き始めと終わり 上記を正しく理解する。				
4	巻軸帯の巻き方と注意事項2		巻き進め方向・巻き締め強度・均等圧・美しさ・巻く速さ 上記を正しく理解する。				
5	巻軸帯の巻き戻し		巻軸帯の巻き戻し方 上記を正しく理解する。				
6	基本包帯法 1		環行帯・螺旋帯 上記を正しく理解する。				
7	基本包帯法 2		蛇行帯・折転帯 上記を正しく理解する。				
8	基本包帯法 3		亀甲(翼状)帯・麦穂(人字帯、スカルパ巻)帯 上記を正しく理解する。				
9	冠名包帯法 1		デゾー包帯(左右)側 上記を正しく理解する。				
10	冠名包帯法 2		ウェルポー包帯(左右側)・ジュール包帯(左右側) 上記を正しく理解する。				
11	部位別包帯法 1		肩関節部固定法 上記を正しく理解する。				
12	部位別包帯法 2		上腕部固定法 上記を正しく理解する。				
13	部位別包帯法 3		肘関節部固定法 上記を正しく理解する。				
14	部位別包帯法 4		前腕部固定法 上記を正しく理解する。				
15	部位別包帯法 5		手関節部固定法 上記を正しく理解する。				
16	期末試験を実施		評価方法	実技試験	80%	0%	
				受講態度	20%	0%	
【教科書】包帯固定学 (社)全国柔道整復学校協会 監修							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 包帯法(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・水 1	【授業形態・単位】	講義・実習 2	
【授業の概要】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③					固定技術 基礎学力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
17	部位別包帯法 6		手指部固定法 上記を正しく理解する。				
18	部位別包帯法 7		股関節部固定法 上記を正しく理解する。				
19	部位別包帯法 8		大腿部固定法 上記を正しく理解する。				
20	部位別包帯法 9		膝関節部固定法 上記を正しく理解する。				
21	部位別包帯法 10		下腿部固定法 上記を正しく理解する。				
22	部位別包帯法 11		足関節部固定法 上記を正しく理解する。				
23	部位別包帯法 12		足背部固定法 上記を正しく理解する。				
24	部位別包帯法 13		足指部固定法 上記を正しく理解する。				
25	各部位の副子固定1		上肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。				
26	各部位の副子固定2		体幹の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。				
27	各部位の副子固定3		下肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。				
28	ギプス固定1		石膏ギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。				
29	ギプス固定2		キャストライトギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。				
30	ギプス固定3		プライトンを用いた固定法 上記を正しく理解する。				
31	期末試験を実施		評価方法	実技試験	80%	0%	
				受講態度	20%	0%	
【教科書】包帯固定学 (社)全国柔道整復学校協会 監修							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 柔道整復学特論 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 関節の構造と種類と筋の起始停止を学ぶ					【受講して得られる力】 考え抜く力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①関節を構成する骨を覚える ②関節の種類を覚える ③筋の起始停止を理解し作用を覚える							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	関節①		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類				
2	関節②		肩関節 肘関節				
3	関節③		手関節 膝関節				
4	関節④		足関節 脊柱				
5	筋①		咀嚼筋 浅胸筋				
6	筋②		腹部の筋 浅背筋				
7	筋③		上肢帯の筋				
8	筋④		上腕の筋				
9	筋⑤		前腕の屈筋				
10	筋⑥		前腕の伸筋				
11	筋⑦		内・外寛骨筋				
12	筋⑧		大腿の伸筋・屈筋				
13	筋⑨		大腿の内転筋 腓骨筋群				
14	筋⑩		下腿の屈筋・伸筋				
15	総復習		復習				
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献	10% 0%	
【教科書】解剖学 改訂第2版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 柔道整復学特論 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 柔道整復師資格取得に必要な運動器の解剖・生理の基礎知識を学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①人体の構成、運動器(骨、筋肉)の名称や働きについての基礎知識を修得する。 ② ③							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	人体解剖学概説		細胞の構成と細胞内小器官の働き 細胞の基本的な構造、働きを学ぶ。				
2	人体解剖学概説		人体を構成する組織・器官について 細胞の集団である組織について知り、特定の機能を果たす器官について学ぶ。				
3	骨格系総論		骨格系の総論 骨の役割、分類、構造、発生と成長について学ぶ。				
4	骨格系総論		骨格系の総論 線維性・軟骨性・滑膜性の連結について理解する。				
5	骨格系総論		脊柱の構造と機能 脊柱の役割、特徴的な構造と機能について学ぶ。				
6	骨格系総論		胸郭の構造と機能 胸郭の役割、構成する骨と特徴的な機能について学ぶ。				
7	骨格系総論		上肢骨の構造と機能 上肢骨の役割、構成する骨と機能、関節について学ぶ。				
8	骨格系総論		下肢骨の構造と機能 下肢骨の役割、構成する骨と機能、関節について学ぶ。				
9	骨格系総論		頭蓋骨の構造 頭蓋骨を構成する骨とその特徴について学ぶ。				
10	筋系総論		筋の形態と起始、停止 筋の基本的な形態と起始、停止の意味について学ぶ。				
11	筋系総論		筋組織について 筋収縮の最小単位、収縮のしくみについて学ぶ。				
12	筋系総論		体幹筋の構造と機能 体幹筋の構造と機能、その特徴について学ぶ。				
13	筋系総論		上肢筋の構造と機能 上肢筋の構造と機能、その特徴について学ぶ。				
14	筋系総論		下肢筋の構造と機能 下肢筋の構造と機能、その特徴について学ぶ。				
15	まとめ		これまでの復習を行う。				
期末 試験	期末試験		評価方法	筆記試験 レポート	80% 10%	受講態度 10% 0%	
【教科書】解剖学 改訂第2版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名:臨床柔道整復学 I (軟組損傷) (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・金 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①各疾患の発生、症状を覚える。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付ける。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出す。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	肩部の軟部組織損傷①		腱板断裂 上腕二頭筋長頭腱断裂			
2	肩部の軟部組織損傷②		ベネット損傷 SLAP損傷 肩峰下インピンジメント			
3	肘・前腕部の軟部組織損傷①		肘側副靭帯損傷 テニス肘 コンパートメント症候群			
4	手・指部の軟部組織損傷①		指側副靭帯損傷 ロッキングフィンガー キーンベック病			
5	手・指部の軟部組織損傷②		マーデルング変形 デュプイトラン拘縮 ばね指			
6	手・指部の軟部組織損傷③/骨端症(上肢)		ボタン穴変形 スワンネック変形 パンナー病 TFCC損傷			
7	上肢軟部組織損傷復習		確認テスト			
8	股関節部の軟部組織損傷①		グロインペイン症候群 梨状筋症候群			
9	股関節部の軟部組織損傷②		ペルテス病 大腿骨頭すべり症 大腿骨頭壊死			
10	大腿部の軟部組織損傷		大腿四頭筋肉ばなれ ハムストリングス肉離れ 大腿部打撲			
11	膝部の軟部組織損傷①		ブラント病 オスグッド ジャンパー膝			
12	膝部の軟部組織損傷②		半月板損傷 側副靭帯損傷 十字靭帯損傷			
13	膝部の軟部組織損傷③		半月板損傷 側副靭帯損傷 十字靭帯損傷			
14	下腿部の軟部組織損傷		コンパートメント症候群 アキレス腱断裂 シンスプリント			
15	下肢軟部組織損傷復習		確認テスト			
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名:臨床柔道整復学 I (軟組損傷) (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・金 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力 基礎学力		
【学習目標(到達目標)】 ①各疾患の発生、症状を覚える。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付ける。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出す。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	末梢神経損傷(上肢)①		腋窩神経損傷 正中神経損傷(前骨間神経)				
2	末梢神経損傷(上肢)②		橈骨神経損傷(後骨間神経)				
3	末梢神経損傷(上肢)③		尺骨神経損傷(肘部管、ギヨン管)				
4	上肢末梢神経損傷復習		確認テスト				
5	足部の軟部組織損傷①		足内・外側靭帯損傷 二分靭帯損傷 扁平足				
6	足部の軟部組織損傷①		足内・外側靭帯損傷 二分靭帯損傷 扁平足				
7	足部の軟部組織損傷②		有痛性三角骨障害 有痛性外脛骨 踵骨棘				
8	骨端症(下肢)		セーバー病 第1ケーラー病 第2ケーラー病 外反母趾				
9	下肢(足部)軟部組織損傷復習		確認テスト				
10	顔面部の軟部組織損傷		顎関節症				
11	頸部の軟部組織損傷①		むちうち損傷				
12	頸部の軟部組織損傷②		外傷性腕神経叢麻痺				
13	胸部の軟部組織損傷		胸郭出口症候群				
14	顔面・頸部・胸部の軟部組織損傷復習		確認テスト				
15	総復習		総復習				
期末試験	評価方法		筆記試験	90%		0%	
			受講態度	10%		0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 物理療法(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 柔道整復師が行う物理療法について分類、安全対策、禁忌、使用法を習得する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①物理療法の効果と禁忌や危険性を熟知し、患者に適切な物理療法が行えるようにする。 ②物理療法の種類、分類を習得し、各外傷の治療時に適切な手段を選択できるようにする。 ③物理療法と手技療法の組み合わせ方を習得し、効果的な治療を実施できるようにする。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 目標達成		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	物理療法とは		物理療法の概念を理解し、正確に取り扱えるよう学ぶ。				
2	物理療法の分類		各物理療法の分類と、共通する安全対策と禁忌を学ぶ。				
3	物理療法各論 電気療法 低周波 ゲートコントロール理論		電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
4	物理療法各論 電気療法 干渉波 高電圧		電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
5	物理療法各論 温熱療法 伝導熱		温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
6	物理療法各論 温熱療法 輻射熱 変換熱		温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
7	物理療法各論 温熱療法 超音波		温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。 また超音波療法の温熱効果以外の効果についても学ぶ。				
8	物理療法各論 光線療法 レーザー 紫外線		光線療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
9	物理療法各論 寒冷療法		寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
10	物理療法各論 寒冷療法 伝導 対流		寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
11	物理療法各論 牽引療法		牽引療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。				
12	小テスト		物理療法各論について理解度を確認する。				
13	物理療法の実際		各物理療法の具体的な操作方法や実施方法を、機械を使用し体験し学ぶ。 (物理療法室またはキース接骨院)				
14	各疾患や外傷に対する物理療法		臨床上、各疾患や外傷に対しどのように選択するべきか学び、自らが正しく選択できるようにする。				
15	物理療法まとめ		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 レポート	80% 10%	受講態度 10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】標準整形外科学 第13版/井樋栄二							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名: スポーツ予防学(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 正しい筋トレによる怪我の予防、再発防止などの体作りを学ぶ					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①筋の構造や働きの仕組みを理解する ②正しい姿勢や器具の使い方を理解する ③各部位のプログラムの作成					考え抜く力 前に踏み出す力 状況判断力 忍耐力 チームで働く力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	筋の構造と働き・種類		筋線維の種類やその特徴				
2	筋の構造と働き・種類		筋線維の種類やその特徴				
3	筋収縮とエネルギー		筋収縮のメカニズムとエネルギーの産生方法				
4	筋トレの効果		筋トレってなに? 筋トレのメリット 筋肥大の仕組み 筋トレと有酸素運動				
5	トレーニングの基本		種目の選択 強度・量・インターバル 各種目の組み合わせ				
6	食事とサプリメント		五大栄養素 理想の体を作るには? 体脂肪のコントロール				
7	自宅でできるトレーニング		器具を使わない筋トレの種類とチューブを使った筋トレ				
8	自宅でできるトレーニング		器具を使わない筋トレの種類とチューブを使った筋トレ				
9	ジムで行うトレーニング(マシン)		マシンを使った各部位の筋トレ				
10	ジムで行うトレーニング(マシン)		マシンを使った各部位の筋トレ				
11	ジムで行うトレーニング(フリーウエイト)		ベンチプレスやダンベルを使った各部位の筋トレ				
12	ジムで行うトレーニング(フリーウエイト)		ベンチプレスやダンベルを使った各部位の筋トレ				
13	筋トレプログラムの作成		上半身・体幹・下半身のトレーニングメニューを作成する				
14	筋トレプログラムの体験		実際に作成したプログラムを体験する				
15	これまでの復習		復習				
期末 試験	評価方法		レポート	80%	授業への貢献	10%	
			受講態度	10%		0%	
【教科書】							
【参考書】効く筋トレ効かない筋トレ 入門運動生理学							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 保存療法(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 柔道整復師が行う保存療法と整形外科医が行う観血療法について対比しながら、それぞれの特性や要点を学ぶ。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復師が行う保存療法のメリット、デメリット、注意点、適応、要点を学ぶ。 ②整形外科医が行う観血療法のメリット、デメリット、注意点、適応、要点を学ぶ。 ③整形外科からみた保存療法の要点を学び、適切な保存療法を行えるようにする。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 固定技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	外傷の定義と受診すべき診療科		外傷の定義を正確に知り、柔道整復師が扱うものと病院(各診療科)が対応するものを把握する。				
2	保存療法と観血療法		保存療法と観血療法の内容を把握し、メリット、デメリットなどの特性を理解する。				
3	整形外科とは		整形外科で取り扱われる疾患や外傷について把握し、柔道整復との違いについて理解する。				
4	保存療法各論 骨折		柔道整復師が行う骨折の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
5	保存療法各論 骨折		柔道整復師が行う骨折の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
6	保存療法各論 脱臼		柔道整復師が行う脱臼の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
7	保存療法各論 靭帯関節包		柔道整復師が行う靭帯関節包損傷の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
8	保存療法各論 筋腱		柔道整復師が行う筋腱損傷の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
9	保存療法各論 神経皮膚		柔道整復師が行う皮膚神経損傷の保存療法と整形外科医が行う観血療法について学ぶ。				
10	整形外科での保存療法 安静 薬物療法		整形外科で行われる保存療法の、安静と薬物療法に関し学ぶ。				
11	整形外科での保存療法 徒手矯正 徒手整復		整形外科で行われる保存療法の、徒手矯正と徒手整復に関し学ぶ。				
12	整形外科での保存療法 牽引法 固定法 装具		整形外科で行われる保存療法の、牽引法と固定法、装具に関し学ぶ。				
13	整形外科での保存療法 理学療法 作業療法		整形外科で行われる保存療法の、理学療法と作業療法に関し学ぶ。 また理学療法と作業療法の違いを理解する。				
14	保存療法の限界 近年の保存療法の傾向		保存療法と観血療法のボーダーラインについて学び、保存療法が適応しない場合や、保存療法の限界について見極め方を学ぶ。				
15	保存療法まとめ		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 レポート	80% 10%	受講態度 10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】標準整形外科学 第13版/井樋栄二							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名:柔道整復実技 I (軟組損傷)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・水 1	【授業形態・単位】	実習 2	
【授業の概要】 柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の治療を理解し実技を実施する					【受講して得られる力】 基礎学力 固定技術		
【学習目標(到達目標)】 ①鑑別診断を学ぶ。 ②整復法、固定法を学ぶ。 ③後療法を学ぶ。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	骨の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
2	筋肉の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
3	関節の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
4	靭帯、腱の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
5	包帯法の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
6	包帯法の実習		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
7	固定包帯法の実習		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
8	固定材料の基礎		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
9	固定材料の制作 1		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
10	固定材料の制作 2		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
11	副子の作成 1		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
12	副子の作成 2		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
13	副子と固定包帯法 1		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
14	副子と固定包帯法 2		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
15	副子と固定包帯法 3		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
16	頸部捻挫 1		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理				
【教科書】全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 第2版 南江堂							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名:柔道整復実技 I (軟組損傷) (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 3	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の治療を理解し実技を実施する					【受講して得られる力】 基礎学力 固定技術	
【学習目標(到達目標)】 ①鑑別診断を学ぶ。 ②整復法、固定法を学ぶ。 ③後療法を学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
17	頸部捻挫 2		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
18	胸部挫傷 1		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
19	胸部挫傷 2		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
20	肋軟骨損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
21	肋間筋損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
22	背部挫傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
23	腰部捻挫		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
24	大腿四頭筋損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
25	ハムストリングス&下腿三頭筋損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
26	MCL&LCL損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
27	ACL&PCL損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
28	MCL&LCK損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
29	アキレス腱損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
30	足関節捻挫		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理			
期末 試験	期末試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	0% 0%	
【教科書】全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 第2版 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

# 授業名： 臨床実習 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	23(45)	
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 学内で習得した知識と技術を基に臨床技術を高める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①対象者に対して、基本的な実習をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる					状況判断力 コミュニケーション力 問題解決力 基礎学力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習オリエンテーション		DVDを鑑賞して、実習での注意事項などを確認する。				
2	附属接骨院に来院された患者さんに対して、教員の元で判断から施術指導管理等を学ぶ。						
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験							
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 臨床実習 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	23(45)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 学内で習得した知識と技術を基に臨床技術を高める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①対象者に対して、基本的な実習をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる					状況判断力 コミュニケーション力 問題解決力 基礎学力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
17						
18						
19						
20	附属接骨院に来院された患者さんに対して、教員の元で判断から施術指導管理等を学ぶ。		※評価は、実習日誌を毎回提出することで出席とし、実習評価表にて評価を行う。			
21						
22						
23						
期末試験	期末試験	評価方法	レポート 受講態度	80% 20%		0% 0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】		教員室にて	